



(株) 中央設計技術研究所
森田 勇二

— 能登半島地震被災の経験 —

【はじめに】

株式会社中央設計技術研究所仙台事務所の森田勇二と申します。

私は地元の建設コンサルタントである中央設計に転職してから 28 年の月日が流れました、大学卒業後都市銀行で働いていた自分にとって、上下水道の専門的な世界は未知の領域であり、文系出身の自分には非常に敷居が高く感じられました。

現場では技術者の皆さんの専門的な知識と経験に圧倒されることも多く、失敗や迷惑をかけてしまったことも少なくありません。

しかし、振り返るとここまでやってこられたのは、同僚や先輩、そして発注者の方々の温かい支えがあったからこそです。

時には厳しい指摘を受けながらも、それを成長の糧として受け止めることで、少しずつ前に進むことができました。

今回「みちのく会員寄稿」にあたり能登半島地震被災の経験とそこから学んだことを述べていきたいと思います。

【地震被災の経験】

令和 6 年元旦、石川県七尾市の和倉温泉で宿泊中に M7.6 の大地震が発生しました、当時七尾湾に面した部屋付きの露天湯壺に浸かっていたのですが余りの大きな揺れで浴槽から立ち上がることもできず怖い思いをしました。

揺れが収まると高台への避難を呼びかける防災行政無線やスマホからの大津波警報アラームがけたたましく流れるなか宿泊施設のスタッフの方々の迅速な誘導により、安

全な避難所へ移動することができました。

避難所の小学校は地元の住民と温泉宿の宿泊客が着の身着のまま集まり、体育館や教室は人で埋め尽くされていました、また水が使えないために飲み水やトイレの確保が困難となり、避難所環境の厳しさを肌で感じました。

寒いなか、見知らぬ人々が一堂に会しながらも、お互いに支え合いながら不安な避難生活を過ごしました。

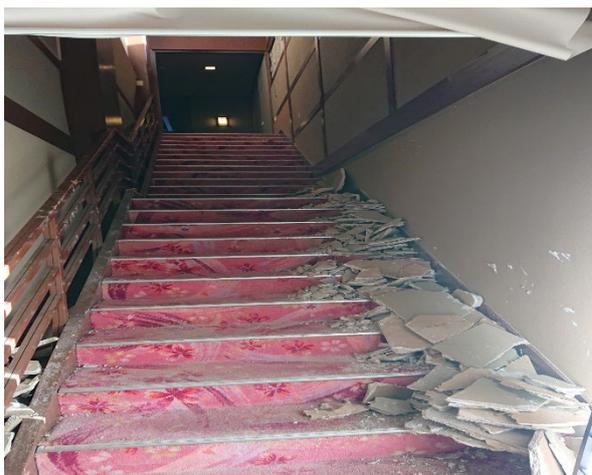
地震直後高台に避難する地元住民と宿泊客



地震による地割れ被害



地震による施設被害



線路上で長期間止まってしまった特急電車



【地震体験から学んだ地域防災の重要性】

1. 生活インフラの強靱化の必要性

水道や生活道路などの基幹インフラが寸断されることで、私たちの日常生活が一瞬で困難なものになることを目の当たりにしました。特に災害発生時における水の供給維持や迅速な復旧体制の整備が、生命と生活を守る上で不可欠であると感じました。

2. 交通網の重要性

基幹道路や JR の寸断により、救援物資の搬送や緊急車両の移動が制限され、復旧活動にも遅れが生じました。地域の交通網を災害に強いものにするため、事前にどのような対策が取れるのかが重要な課題であると感じました。

3. 住民や宿泊客、地元宿泊業者の協力の力

避難所では、地元住民と宿泊客、宿泊業者が協力し合いながら生活の知恵を共有する場面がありました。特に宿泊業者さんが宿から寝具や食料・飲料水を運び込み炊き出しをするなど「私たちを守りたい」という気持ちが伝わり、心が温かくなりました。この行動は単なるサービスではなく、非常時における真のホスピタリティの表れだと感じました。このような「助け合いの精神」が、困難な状況下での避難生活を過ごす原動力になりました。

【今後の取り組み】

能登半島地震では、全国の自治体や民間事業者が一丸となって復旧支援に取り組んでおり、その中で上下水道施設の復旧も重要な課題として位置づけられています。

技術者たちが昼夜を問わず被災地の復旧に尽力する姿は、上下水道コンサルタントの役割・使命の重要性を改めて実感させます。

今回の経験を踏まえ、上下水道コンサルタントの一員として、また協会支部の活動を通じて地域防災に貢献できるよう、次のような取り組みをさらに進めます。

1. 日々の業務で防災意識を高め、施設設計や維持管理の提案に活かす。
2. 最新の技術 (AI やドローン技術など) や知見を取り入れた災害対応力の強化の提案。
3. 迅速対応のための人材育成、日ごろの取り組み (避難訓練等) の重要性の発信

これからも使命感を持って日々の業務に取り組み、地域社会の安心と安全に寄与していきたいです。